

令和元年度事業報告

I. 令和元年度（2019年度）事業の概要（全体）

令和元年度は自立経営（収支均衡）を目途にした「抜本的改革・選択と集中」期間（2018年度～2020年度）の中間年として、農業・教育を取り巻く環境が大変厳しい中で、また、事業費（人件費）削減と収益拡大（農場・教育）と言う相反する対策に苦慮しながら数回の理事研究会や様々な取組を実施した。

また、昨年10月の理事会で、増益（年度末見通し：前年比10百万円赤字削減・収支増減額▲57百万円）及び2022年度での収支均衡計画（経営改善の道筋と資金管理について）を提示した。

2019年度決算結果は収支増減額▲58百万円（除く減価償却費）とほぼ見通しを達成したが、依然、赤字が継続しており、2020年度からの更なる取組強化が必要である。

前年比で見ると、収益では、「農場」が甘藷・蔬菜の増収により2.9百万円増益となったが、「教育」▲7百万円、補助金▲3.5百万円で、「経常収益」が▲8.3百万円となった。費用では、事業費で11.8百万円、管理費で3.8百万円、合計で15.7百万円の削減を行い、結果として経常増減額で7.3百万円の増益になった。

また、預貯金残は1.6百万円と減少しているが、土地売却益が4月にずれ込んでおり、引き続き資金管理を強化して取り組む必要がある。

II. 実施内容

1. 主要行事の実施

第1回理事会	2019年	5月	30日
定期総会	2019年	6月	15日
第2回理事会	2019年	10月	30日
第3回理事会（書面）	2020年	3月	10日

上記以外に「今後の運営について」をテーマに下記の研究会・会議を実施した。

5/30(理事会後)、6/15(総会后)、6/23(鈴木・白石・玉造)、7/10(鈴木)

2. 重点実施策・取組結果

(1) 「抜本的改革・選択と集中」の実施(部門の再構築)

①「経営改善の道筋と資金対策について」を作成し、2022年度収支均衡を目途にした計画を策定し理事会で協議した。

*2019年度末での概要：別紙1

②平行して部門再構築・合理化について下記の取組を実施した。

・畜産 ・蔬菜 ・水耕 ・果樹 ・直売所

*部門別の再編・合理化の取組概要：別紙2

③人件費一律7%削減および来年度からの身分・給与の変更策を明確にし、職員に説明した(個別面談も実施した)

(2020年度 20百万円削減予定)

④定年退職等4名(3月末)・若手職員4名(1月予定)の合計8名の退職が明確になった。

(2) 学園の理念・精神の再整理・発信

①3月理事会で教本案(未定稿)・新しい教育理念方針の考え方・具体的な取組内容を提示した。

②「学園案内」「ホームページ」「寮の清掃」「訪問日ガイダンス」等を新しい教育理念を意識して作成した。

③協会の教育理念・基本姿勢(農の意義)を発信するため、小冊子『子供たちの健康・未来のために(食と農を大切に)』を作成し、発行の準備中である。

*小冊子(案)：別冊1

(3) 教育関係

①職員で検討・実践5チームを作り、強力に学生募集に取組中である。

また、「学校案内」の新規作成・効果的配布、情報発信の強化や新しい取組を実施した。

*学生募集の取組概要：別紙3

*学生数の現状：別紙4

*教育・研修・学校行事等の実績：別紙5

(4) 農場・販売関係

①部門責任者会議(月1回)を実施し、責任者の明確化・情報の共有化・計画達成に対する責任感の醸成・各部門における創意工夫ある取組を実施した。

②重点部門(かんしょ・畜産・野菜・直売所)を中心に収益向上策を検討・実施した。

*部門別実績：別紙6

*部門別収益向上対策の概要：別紙7

③水耕部門・養牛・野菜・直売所など再編・合理化に向けて検討・着手した。

④農福連携の実施

*取組概要：別紙8

⑤農場機械・設備導入状況

*取組概要：別紙9

(5) 施設の維持・改修、解体

①老朽家屋2件(63㎡、390㎡)の解体を実施した。

②寄付金を受付け、施設の改修を行った。別紙10

③寮内、本館等の清掃頻度を増やし清潔、美化に努めた。

(6) 情報発信力の強化・ネットワークの構築

①「学園案内」(パンフレット)のリニューアルと効果的発信の実施した

②Instagram、Twitter等のSNSで情報発信を行った。

③近隣住民に直売所チラシの配布、直売所での特売等を実施した。

(7) 資金調達の計画的な実施

①土地売却を計画的に実施した。

*参考：資産活用(売却)の概要11

3. 2019年度決算報告書 別冊2

以上